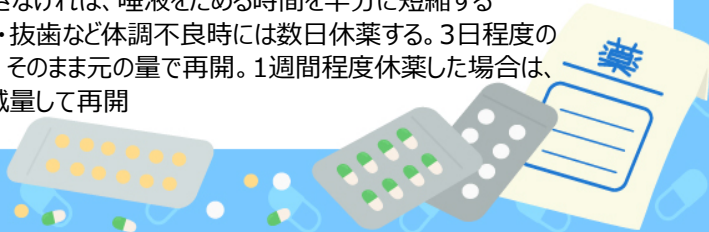




## ◆◆◆舌下免疫療法について◆◆◆

舌下免疫療法は、アレルギー症状のひどいお子さんにとっては、症状を克服することで、日常生活を快適に送ることができるようになる治療です。長期間の治療となるため、いろいろと不安なことを話しながら、チームで継続できるようにフォローすることが重要になってきます。その中で、副反応を軽減させる方法も、細やかにお伝えすることで、安心して前向きに治療に向き合うことができます。副反応を少しでも軽減する方法を下記に示します。

- 舌下1時間以上前に、抗アレルギー剤を内服する
- あらかじめ唾液をためておく
- 正中を避け、右か左の舌下に薬を置く
- 満腹を避ける
- 一時的に舌下する量を減らす。副作用は1～2ヶ月程度で減弱する
- のどや消化器の症状が出たら、舌下を飲み込まず吐き出す
- 1分我慢できなければ、唾液をためる時間を半分に短縮する
- 発熱・下痢・抜歯など体調不良時には数日休薬する。3日程度の休薬であれば、そのまま元の量で再開。1週間程度休薬した場合は、半錠3日など減量して再開



## ◆◆◆窓口での受付時間の変更◆◆◆

12月1日より窓口での受付時間に変更になります！！！！  
 現在 8:30～12:00 (土曜 8:30～12:00)  
**変更後 8:50～12:00 (土曜 8:50～13:00)**  
 予防接種外来と午後の診察は今まで通りになります。  
**朝病院の玄関が開くのが8:50となります。**  
 急な変更でご迷惑おかけしますが、よろしくお願いいたします。



## ◆◆◆子宮頸がんワクチン◆◆◆

先日、子宮頸がんワクチンの勉強会がありました。日本では、年間約10,000人が子宮頸がんを発症し、毎年約2,900人の女性が子宮頸がんによって亡くなっています。子宮頸がんは、出産年齢期の20～40歳代の女性に多いがんです。女性にとって、子宮頸がんは単に手術で子宮を摘出すれば済む問題ではありません。治療後も排尿・排便障害や、下肢のリンパ浮腫など、長期的に身体的・精神的苦痛を強いられます。幸いなことに、子宮頸がんには予防のためのHPVワクチンという選択肢があります。また予防に欠かせないのが子宮頸がん検診です。ワクチンは100%予防できるわけではありません。しかし、検診で早期発見できれば子宮を失わずに済む可能性が高くなります。「10代でワクチンを！20歳からは検診を！」

HPVワクチンの積極的勧奨の差し控えにより接種機会を逃した方へ、「キャッチアップ接種」が開始しています。

対象者：①平成9年度生まれから平成17年度生まれまでの女子  
 ②キャッチアップ接種期間中に定期接種の対象から新たに外れる世代  
 ※平成18年度生まれは令和5・6年の2年間、平成19年度生まれは令和6年の1年間  
 期間：令和4年4月1日から令和7年3月31日



当院では4価HPVワクチンのガーダシルを接種しております。3回接種で、1回目から2ヶ月あけて2回目、1回目から6ヶ月あけて3回目の接種となっております。ここ数年、少しずつ接種される方が増えてきています。不安なことがありましたらいつでもお声掛けください。またガーダシルは予約制になってますので、お電話で予約をお願いいたします。

## ◆◆◆インフルエンザワクチン◆◆◆

インフルエンザワクチンご希望の方はインターネットから予約をお願いいたします。

3歳未満 3500円  
 3歳以上 3850円

予約サイトアドレス  
<http://www.8668800.com/j/>



### 「年末年始のお知らせ」

12月29日(木) 通常通り  
 12月30日(金) から1月3日(火) 休診  
 1月4日(水) 通常通り午前診療



今年も残すところあとわずかですが、よろしくお願いいたします！！

### 「12月の代診のお知らせ」

14日と28日の水曜日と6日火曜日の午後は畠添先生の診察になります。診断書の記入や体重チェック、臍ヘルニアの診察の方は院長先生の診察日に来院していただくようお願いいたします。

「診療時間」月曜・火曜・木曜・金曜：9時～12時、14時～18時（17時30分受付終了） 予防接種専門外来：14時～15時  
 水曜：9時～12時、土曜：9時～13時  
 健康診断（4か月・10か月・1歳6か月）：月曜・火曜・水曜・木曜・金曜（予約制）

